

「小京都」の面影を守る 「花と緑と清流のまちづくり」。



菊池市

菊池の春は、菊池神社周辺の一万本桜を背景に、温泉さくら祭で始まり、つつじの季節へと続きます。菊池の春は、菊池神社周辺の一万本桜を背景に、温泉さくら祭で始まり、つつじの季節へと続きます。菊池の春は、菊池神社周辺の一万本桜を背景に、温泉さくら祭で始まり、つつじの季節へと続きます。

時代を先取りする研究基地 「バイオの村づくり」。

旭志村

バイオの村旭志村。国道325号沿線の川辺工業団地は、テクノポリス計画でバイオの森として位置づけられ、時代を先どりする研究機関先進企業が進出しています。構想では、住民にまず「バイオテクノロジー」への理解、関心を寄せていただくことが先決とし、バイオパーク、バイオロード、バイオ情報センター、バイオ展示館の建設が計画されています。

地域は、畜産が盛んなところから、受精卵移植、家畜ふん尿をメタンガス発酵させ、有効利用と環境の浄化保存を図るといった、畜産関係のバイオプロジェクトを進め、全国からも注目されるような畜産バイオのモデル地域実現を目指しています。また、バイオの村のシンボルともいえるワクチンメーカー「化学及血清療法研究所(化血研)」では、世界のバイオテクノロジー市場への本格参入をめざして研究がすすんでいます。

旭志村

町ぐるみで盛り上がる 「つつじの里づくり」。

大津町

大津町は、古くから「つつじの町」として広く知られています。町内には、昭和園 大松山公園、日吉神社などのつつじの名所があります。町では、このつつじを生かした町づくりを進めるため、二つのラインを設け、整備を進めようとしています。SANKIN(参勤)ライン 江戸時代、参勤交代の宿場として栄えた

大津町の歴史的背景を生かしながら、参勤交代道を整備しようとするものです。フラワー・ライン 国道325号から本田技研の南側町道を経て高尾野までの区間に桜を15m間隔に植え、その間につつじを植え、サイクリングや町民のいこいの場、駅伝コースなどにしようとするものです。町が、このような地域づくりを進めていたところ、住民の間からも、住みよみ町づくりを目指した運動が盛り上がり、民間人を中心とした「明日の観光大津を創る会」が結成されました。各種の行事や、イベントを企画立案し、実施に移すなど、積極的な取り組みが始っています。

農業・テクノ・観光、

多彩な産業で伸びる

菊池地方の日本一づくり。

菊池地方のシンボル、鞍岳。山頂からは、農工並進で発展しつつある姿が頼もしくながめられます。左手には、国際線の滑走路が伸びる熊本空港。中央部には先端技術の工場群。右手は一面の田畑、青々とした牧草地。熊本市街の方に目を移すと、広がりつつある住宅団地が望めます。歴史と伝統が息つき、自然環境に恵まれた菊池地方。日本一のカスミノウや幻の米「旭一号」の復活など、力強い農業振興とともに、熊本テクノ計画の一大拠点として、今、二十一世紀へ向けて着実に動き始めています。



豊富な竹を資源に 「中世城跡と竹の町づくり」。

合志町

合志町の中心部にほど近い竹山の中心に、中世の城跡として知られる竹迫城跡があります。合志町では、この城跡を、中世の

タケノコシーズンに、この会場で初めて催されたタケノコ掘り大会は、多勢の人で賑わいました。また、竹細工など竹を生かしたまちづくりも積極的に進められています。

竹迫の地名からもわかるように、この地区には、竹山が多く、今年の

清らかな合志川を核に 「魂のふる里づくり」。

泗水町

大津町・菊陽町 隣接し、先端技術産業が次々と進出しています。二つの町では今、県が進めている「マイタッチ計画」とともに、「コンピュータのまちづくり」に取り組み

ニューメディアで結ばれ、人々が気軽にパソコンを操作している、そういう時代も、そう遠くないかも知れません。

泗水町の中心部を流れている合志川。泗水町の人々は、小さい時からこの川を見て育ち、この川に親んできました。町民にとって、心のふるさとともいえるべき川です。泗水町では、この合志川を中心にまちづくりが進められようとしています。川をきれいにしようという心、奉仕活動への参加、このような意識の高まりが、やがては、美しい心のふるさとづくり、「心豊かな人づくり」につながるであろうという町の願いが「魂のふるさとづくり」というキヤッチフレーズを生み出しました。合志川沿線には、四季折々の花々が咲き乱れ、川面には、ボートを漕ぐ青少年の声があちこちから聞こえます。

清らかな合志川の流れるとともに、泗水の人々の豊かな心の流れが、未来へと続くことでしょう。



旭志村